

主題 「言葉に関わる問いを基に探究課題を設定して学びに向かい、自分の考えを広げたり深めたりする生徒」の育成

1 主題設定の理由

価値観の多様化、都市化、少子高齢化、国際化など、今日の社会の変化は目まぐるしいものである。生徒たちが「実現したい未来」に向かって自ら歩むためには、一人一人の幸福な人生とよりよい社会の実現が欠かせない。総論に示されているように、学校という場における集団社会はもちろんのこと、その先の人生の段階ごとにおける社会生活において、自己を成長させることを願い、また他者と温かな人間関係を築けるようになってほしい。国語科では、言葉を通じて人や社会と関わったり、自分なりのものの見方や考え方を働かせたりすることで、一人一人が実現したい未来を創造できるようになることを目指したい。

実現したい未来に向けて「挑戦したい」と自ら行動を起こすためには、あらゆる事象に対して問いをもち、その問いを基に探究課題へと練り上げる必要があると考える。国語科においては、生徒が「言葉に関わる問い」を基に、「探究課題」を設定できるようになることを目指す。「言葉に関わる問い」とは、言葉そのものや言葉と言葉との関係や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断・表現することにつながる問いと考える。(以降、「問い」はこれを指す)。また、「探究課題」とは問いを基に個人が設定する課題を指す。言葉に関わる問いを基に探究課題を設定することで、「挑戦したい」という当事者意識が高まるだろう。また、探究課題を基に学びを重ねる過程で何が分かったのか、何が足りないのかを考え、探究課題を更新したり学びの方向性を調整したりすることで、言葉に関わる自分の考えを広げたり深めたりすることができるだろう。

そこで、生徒一人一人が問いをもち、既習事項を振り返りながら探究課題を設定する活動が必要だと考えた。また、単位時間ごとの初めに見通しをもち、終わりに振り返る時間を設けてメタ認知を促し、探究課題を更新したり学びを調整したりすることができるような工夫が必要だと考えた。

以上のことから、探究的な学びを実現するための具体的な手立てを通して、「言葉に関わる問いを基に課題を設定して学びに向かい、自分の考えを広げたり深めたりする生徒」の育成を目指して研究を進める。

2 探究的な学びを実現するための具体的な手立て

(1) 生徒一人一人がもつ問いと既習事項を結び付け、探究課題へと練り上げる「SVシート」の活用

生徒が当事者意識をもって学びに向かうことができるようにするには、「どうして太郎君は涙を流したのだろうか」「なぜ、筆者は過去の描写を入れたのだろうか」などのような言葉に関わる問いから、「どんなことを学ぶべきか」「何を探究していけばよいか」を検討して探究課題を設定する必要があると考える。また、個人で設定する探究課題を、既習事項や単元の課題を踏まえたよりよいものにしていくために、小学校から中学校までの指導事項に関連した習得すべき

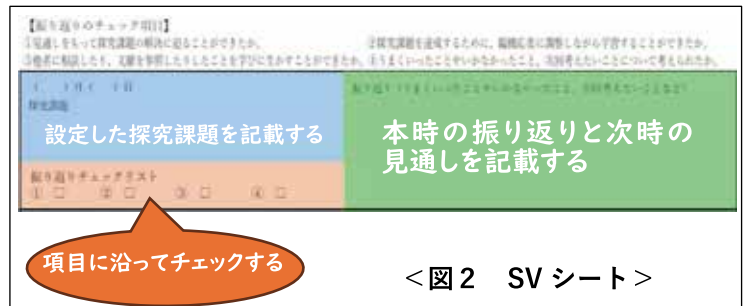
日付	単元	項目	スキル
4月18日	ふしぎ	詩	表現技法に注目して読むことができる。
4月18日	ふしぎ	詩	表現技法を活用して詩を創作することができる。
4月19日	ふしぎ	詩	心情を表す語句を使用して詩を創ることができる。
4月30日	桜蝶	文学的文章	視点によって話の印象が変わることを理解している。
4月30日	桜蝶	文学的文章	心情の移り変わりを描写から読み取ることができる。
5月9日	言葉の単位	文法	言葉には単位があることを理解している。
5月19日	自分の脳を知っていますか	説明的文章	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に考えることができる。

<図1 SVシート>

スキルや用語がまとめられた「SVシート」を活用する(図1)。本シートは、国語の読みの「スキル」と、授業で出会った「語彙」が集約されている。探究課題を設定する際にSVシートを見返すことで、「あの時学んだスキルや語彙は活かさないか」のように考え、よりよい探究課題へと練り上げることにつながり、当事者意識をもって学びに向かうことができるようになると思う。

(2) メタ認知を促し、学びを調整する「学びの足跡シート」の活用

探究的な学びを重ねる上で、学びの見通しをもつことと自らの学びを振り返ること、自分がどこまで探究を深められているのかメタ認知を促すことができるような工夫が必要だと考える。そこで、見通しと探究の成果が一目で見て自覚できるように「学びの足跡シート」を活用する(図2)。本シートは単位時間の初めの見通しの場面、終末の振り返りの場面で使用する。探究活動に入る前に本シートを見返すことで、「今日は何を探究すべきなのか」見通しをもち、活動の終わりに振り返りを記入しながら「ここまで探究できた」と自身の取り組みを省みることができる。これらを積み重ねていく中で、「この方向性で探究を続けてよいのだろうか」と立ち止まって自身の学びの方向性を見直したり、「他に探究すべきことはないか」と探究課題を更新したりして、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。



<図2 SVシート>

3 授業実践例

(1) 単元 『タオル』

(2) 実施時期/学年/配当時間

令和6年5月～6月/第1学年/全6時間

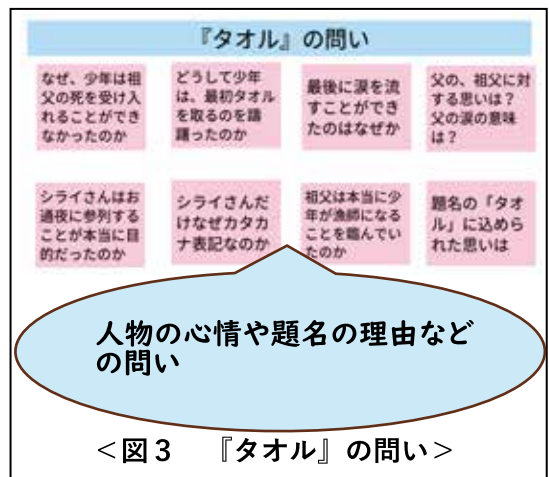
(3) 単元の目標

叙述を基に探究し話し合う活動を通して、登場人物の言動の意味について考え、作品をより深く解釈することができるようにする。

(4) 実践の概要

第1時は、生徒は事前に『タオル』を自宅で読み、初発の感想をもった状況で始まる。初発の感想と、指導事項と言語活動を含む単元の課題を確認した後、「この単元でどんな問いがある?」と問いかけ、人物の心情や題名の理由など多くの問いが挙げられた(図3)。ここで、「SVシート」を活用して既習事項を振り返り、「『少年の日の思い出』で文章の構成と展開や言葉そのものに注目して読んだ。今回も意識してみよう」「『虹の足』で象徴について学習をした。タオルがどんなことを象徴しているのか考えたい」といった考えが出た。個々の問いを基に、「SVシート」を活用することで、指導事項との結び付きを意識しながら個々の探究課題へと練り上げることができた(図4)。

第2、3時では、前時に設定した探究課題を解決するための探究学習が始まった。「なぜ、少年は最後にようやく涙を流すことができたのか」という探究課題を設定した生徒は、少年に関わる人物との関係性を図式化して整理したり、少年の心情や行動に関わる言葉に注目したりしていた(図5)。また、「タオルがどんなことを象徴しているのか」という探究課題を設定した生徒は、タオルの所有者であった祖父について探究をしていた。この時、教師は机間巡視をしながら探究に行き詰まった生徒に対し、何を考えどこで止まってしまっているのかを話しながら支援した。自身の探究に近い人にアドバイスをもらいにいたり、一緒に考えたりしている生徒もいた。授業の終末では、「学びの足跡シート」のチェックリストと振り返りを記入した。自分の学びの足跡シートを見



<図3 『タオル』の問い>



<図4 生徒の問いと探究課題の実際>



<図5 生徒の探究成果>

て、前時の内容を振り返ったり、次時にどうするのか見通しをもったりして、自分の考えを広げたり深めたりしていた。第3時終了時点で、まだ探究が足りていないと思う生徒もいれば、最初に設定した探究課題を更新し、別視点から学びを進める生徒もいた。(図6)。

4 研究の成果と課題

成果として、「課題を解決するために挑戦したい」という気持ちについて、昨年度3月時点と現在を比較するとどうですか。」と「自身の学びを振り返り、方向性を調整したり問いを更新したりすることについて、昨年度3月時点と現在を比較するとどうですか。」という、2つの質問事項についてアンケートを行った結果、質問①と②それぞれ高まったと捉えている生徒が89%、91%と多いことがわかった(図7)。

生徒の意見として、「SVシートを使うようになってから過去に自分がどんな学びをしたかが振り返られ、課題を設定する際に生かすことができた」「学びの足跡シートを使ってみて、自分がどこで考えが変わったのか、どのくらい深まったのかなどが分かる」などが挙げられ、手立ての有効性が確認できた。「SVシート」

を活用することで、生徒はこれまでの国語科の学習を想起して、指導事項から逸れることなく探究課題を設定し、当事者意識を高めて学びに突き進むことができたと考える。また、「学びの足跡シート」を活用し、「どこまで分かったのか」「次の時間は何を学ばよいか」といったメタ認知を促すことで、単元の課題の達成に向けて「学びの足跡シート」を確認しながら探究に向かうことができたと考える。

課題として、本研究のような探究的な学習を通して、教師のねらいとする資質・能力の育成を十分満足な状態まで行おうとすると、より多くの時数が必要となってしまうことが挙げられる。これは、授業者の育成したい資質・能力の捉え方が網羅的であることや、探究的な学びに合った単元と年間指導計画の構想にまで至っていないことが原因だと考えられる。

5 今後の展望

本研究を通して、自らの問いを基に設定した探究課題を達成しようと、意欲的に学びに向かう姿を見取ることができた。探究を行うことで単元にかかる時数が増えてしまうことについては、育成したい資質・能力と教材や学習活動との関連を吟味し、3年間の見通しをもったカリキュラムマネジメントをすることが必要だと考える。また、反転学習を取り入れているが、授業外で授業に生きる学びを提供することで更に探究を深め、言葉に関わる自分の考えを広げたり深めたりすることができると考える。今後も、生徒一人一人が国語科の学びを通じて実現したい未来の創造を目指していけるよう研究を推進していきたい。

<参考文献>

群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランII』

群馬県教育委員会 (2024) 群馬県教育ビジョン 第4期群馬県教育振興基本計画

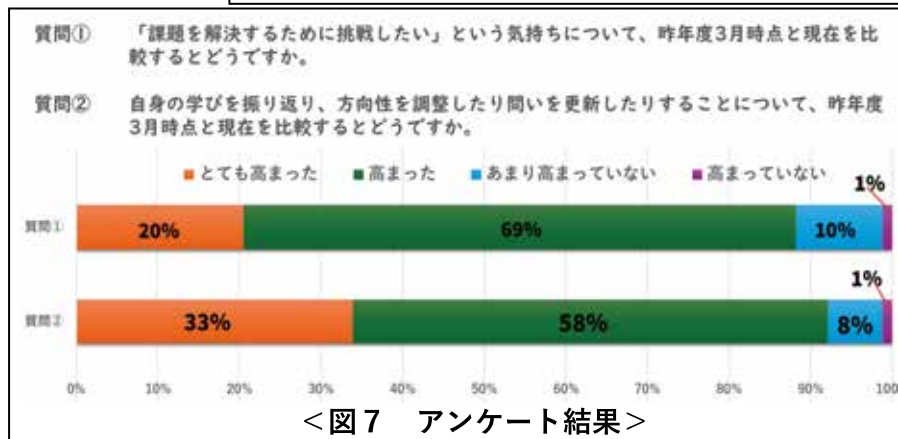
酒井 雅子 (2023) 『国語科授業で実現する「探究」 深い問い・対話・批判的思考・創造的思考』 明治図書出版

文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社

文部科学省国立政策研究所 (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 東洋館出版社

<p>【4】時 24日 探究課題 振り返りチェックリスト ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/></p>	<p>振り返り「いままで学んだことや気づいたこと、次年度3月時点と現在の学びについて」 今日は、SVシートを見て振り返りながら探究課題を作ることができた。自分は、登場人物の中でも主人公に注目したいと思った。次回は、主人公の行動や会話部分から人物像を考え、余裕があれば人物関係についても考えていきたい。</p>
<p>【5】時 30日 探究課題 振り返りチェックリスト ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/></p>	<p>振り返り「いままで学んだことや気づいたこと、次年度3月時点と現在の学びについて」 主人公の行動や会話について、各場面でのなにかを整理する。なぜ、少年は最後によく涙を流すことができたのか。本来、サッカー選手を目標とした明るい子供だったと思うが、祖父の死をきっかけに一時的に暗い(？)人間性が出てしまっているのではないかと考えた。他の人物との関わりを次回考えていきたい。</p>
<p>【5】時 2日 探究課題 振り返りチェックリスト ① <input checked="" type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input checked="" type="checkbox"/> ④ <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>振り返り「いままで学んだことや気づいたこと、次年度3月時点と現在の学びについて」 今日は人物同士の関係性を整理した。シライさんとの関わりが主人公に大きく影響しているように思った。自分の側で、シライさんは主人公のためにやってくれたのかどうか疑問だったが、主人公を変えるためにやってくれたのではないかと考えるようになった。次回は、シライさんの作品における役割について考えてみたい。</p>
<p>【5】時 1日 探究課題 振り返りチェックリスト ① <input checked="" type="checkbox"/> ② <input checked="" type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input type="checkbox"/></p>	<p>振り返り「いままで学んだことや気づいたこと、次年度3月時点と現在の学びについて」 「シライさんに関すること」を整理していく必要があると思うようになった。個人的には、シライさんがこのお話の鍵を握っているように思える。涙を流すまでをナビゲーターしたのがシライさんだと思うので、本文を根拠に示せるようにしたいです。</p>

<図6 生徒の学びの足跡シートの実例>



<図7 アンケート結果>